慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	森 武之助先生略歴
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1977
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.14 (1977.) ,p.344- 345
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	森武之助先生退職記念論集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000014-0344

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

森　武之助先生略歴

明治四十四年九月、東京市日本橋区浜町に生る。家は自家なるも、土地は旧熊本藩主細川家より借地す。元来、森家は下級の幕臣にて、馬喰町郡代屋敷内に住せしも、維新後、浜町に移る。細川家との縁因未詳。大正七年四月、東華尋常小学校に入学。大正十二年九月、関東大地震に遭遇し、外祖父の別宅ありし千葉市に避難。千葉県立女子師範学校付属小学校に転じ、翌十三年三月卒業。同年四月、慶應義塾普通部入学。居宅、麹町区一番町（後に三番町と改称）に定まる。昭和四年三月、普通部修了。同年四月、慶應義塾大学文学部予科に進学。当時の風潮として普通部より文学部を志望し進学する者は稀有であった。昭和七年四月、同文学部国文科に進学。昭和十年三月、卒業。同年四月、同大学院に入学し二ヶ年在籍す。

昭和十四年四月、麹町三番町自宅に近接せる大妻高等女学校講師となる。同十七年四月、大妻女子専門学校教授となる。但、教授とは名目のみにて週一日出勤、国文学を講ず。昭和十六年十二月、我が国米英に開戦せしも、終に軍務は免かる。同二十年五月、麹町宅空襲の為全焼し、鎌倉別宅に移り現在に至る。

昭和二十四年四月、戦後の新制度による大妻女子大学教授となり、同二十五年三月迄勤務す。同年四月、当時横須賀市にあった清泉女子大学教授に転じ、同時に慶應義塾高等学校教諭となる。二校共に専任とは戦後の混乱期にまま見られた変則である。昭和二十八年十月、慶應義塾大学文学部兼担講師となる。故は同年九月、折口信夫教授の死去による応急人事処置なり。翌二十九年四月、文学部専任講師となり、三十二年四月、同助教授。三十八年四月、同教授となる。

この間、昭和三十七年三月、文学博士の学位を受く。同年十一月、慶應義塾賞を受く。昭和四十三年十月、慶應義塾大学付属研究所斯道文庫長（兼任）に選出さる。以後、四期八年に亙り文庫長としてありしも昭和五十一年九月これを辞し、同文庫顧問となる。

昭和五十二年三月、慶應義塾規定により定年退職す。同年、慶應義塾大学名誉教授となる。

著作として、主著―「浄瑠璃物語研究」（昭和三十七年刊）。共著―「初期仮名草子集」（昭和三十四年刊）その他。講座―三省堂講座日本文学のうち「文学と説話」（昭和四十四年刊）。編著―玉川大学百科大辞典のうち「近世の文芸」（昭和三十五年刊）。翻刻・解題―「続清水物語」（昭和三十八年刊）その他。論文―「心中を焦点としての西鶴と近松」（昭和三十三年刊）その他。エッセイ―「芭蕉像鑑賞の為に」（昭和三十九年刊）その他。

（付記）右の略歴は、森先生の御希望により、御自身で執筆された原稿をそのまま掲載させて頂いた。